

Part 4, Vols 10–14 : Women's History, First Series

ISBN 4-902708-33-7 C3322 ・ 全5巻セット定価78,000円(税込81,900円)

イギリス女性史研究の基礎資料として注目すべき研究書を復刻。

Volume 10 & 11 : Georgiana Hill *Women in English Life from Mediaeval to Modern Times* (1896)

ISBN 4-902708-34-5 C3322 ・ 742 pp., 2 pl.

全2巻セット定価30,000円(税込31,500円)

中世以降19世紀後半に至るまでのイギリス女性史の大著。国民生活における女性の地位に焦点が当てられ、社会的局面が詳しく取り上げられる中でごく普通の女性の日常生活に対する多くの検討がなされている。

Women in the Days of Feudalism: a mediaeval manor-house; learning before the days of the printing press; the rise of the middle classes; women and ancient guilds; the mediaeval nun; the church as a social factor; almsgiving in olden times • England after the Renaissance: family life after the fall of feudalism; the scholars of the sixteenth century; a lady's education in the seventeenth century; glimpses at great ladies; every-day life in the Stuart period; petitioners to Parliament; heroines of the civil war; the martyr periods: religious zeal and religious apathy; witchcraft; women and the arts • Life in the Last Century: matrons and maids; the great lady of the eighteenth century; the political influence of women; the Bas-Bleu; the philanthropists; sermons in drawing-rooms • Women in the Victorian Era: change of ideal; the modern great lady; women as travellers and explorers; educational advance; women in literature; art as a profession; the gentlewoman in trade; the modern woman of business; the factory hand; the domestic servant; the modern humanitarian movement; the sisterhood system; the freedom of dissent; woman as nurse; woman as doctor; women and modern politics; women and public work; the claim for political equality • Index

Volume 12 : Rose M. Bradley *The English Housewife in the Seventeenth and Eighteenth Centuries* (1912)

ISBN 4-902708-35-3 C3322 ・ 348 pp., 8 pl., ill.

15,000円(税込15,750円)

イギリス17世紀から18世紀にかけてのイギリス女性の家庭生活について概観した好著。ピューリタン革命期からヴィクトリア朝成立までの、女性を取り巻く家庭環境の史的展開を簡潔にたどったもので、基礎的な研究資料。

The Training of the Housewife • The Country Housewife • The Home • Hospitality • The Kitchen and the Inventories • The Table • The Herb-Garden and the Still-Room • The Servants • The London

Housewife • Shopping under the Stuarts • The Dutch Influence • The Lady of Quality • The Pudding Age • What Money Could Buy • The Georgian Home • The Age of Gentility • The Honours of the Table and the Foot-Man's Guide • Index

Volume 13 : Myra Reynolds *The Learned Lady in England, 1650–1760* (1920)

ISBN 4-902708-36-1 C3322 ・ 502 pp., 16 pl.

18,000円(税込18,900円)

17世紀から18世紀中頃にかけてイギリスの市民社会が伸長していく時期の女性知識人について詳述。人物の描写にとどまらず、著述活動、教育状況、女性について書かれた当時の書物などについても触れられており、社会文化資料としても有益。

Learned Ladies in England before 1650: prefatory statement; period of Henry VIII and Elizabeth; period from 1603 to 1650; schools for girls before 1660 • Learned Ladies in England from 1650 to 1760: an introductory group in the years 1650–1675; the century following the Restoration: actresses, artists, authors, general learning and literary work • Education: boarding-schools for girls; charity schools; higher education • Miscellaneous Books on Women in Social and Intellectual Life • Satiric Representations of the Learned Lady in Comedy • Index

Volume 14 : Ida Beatrice O'Malley *Women in Subjection: A Study of the Lives of Englishwomen before 1832* (1933)

ISBN 4-902708-37-X C3322 ・ 366 pp.

15,000円(税込15,750円)

18世紀末から19世紀前半にかけてのイギリス女性の生き生きとした社会活動の様子を豊富な史料によって描き出した優れた研究書。メアリ・ウルストンクラフト、エリザベス・フライ、ハナ・モアといった著名な人物だけにとどまらず、比較的マイナーな女性活動家についても触れられ、女性解放への早期の動きを示している。著者 Ida Beatrice O'Malleyもまた女性参政権運動や女性高等教育運動に密接な関わりを持っていた人物。

Subjection in Law and Life • Relative Education • The Vindication in Life and Letters • The Vindication in Religion • Mary Wollstonecraft • The Women Philanthropists • The Progress of Education and the Literary Ladies • Jane Austen and the Middle-Class Women of Her Day • Working Women at the Beginning of the Nineteenth Century • The Springs of the Women's Movement • List of Dates • Index

イギリス女性史研究にとって必読文献の復刻

河村 貞枝 (京都府立大学教授)

近年の歴史学研究の最も顕著な特徴は、「女性の過去」に向けられた関心の増大である。女性史研究のこの活況は研究対象の地域・時代・分野を問わないが、とくにイギリスは際だって研究成果が多産である。数十年前に「女性史は成立するか」という批判的議論が展開されていたことを思い返すと、まさに隔世の感がある。

また、歴史学一般について考えてみると、かつて歴史学の王道であった政治史がやや後退して、いわゆる「社会史」が前面に出てきた。そして過去の人間活動の場を公領域と私領域に二分するなら、「社会史」の勃興は、大きく家族史の中に包摂しうる私的領域での女性の営為をより重視するようになった。従来、戦争・外交・政治・商業といった、ほとんど男性のことがらであった過去の公的活動に研究が集中していた歴史学のフロンティアが拡大されてきたのである。そのような歴史学それ自体の再考の動きの中で、「女性史」は単なる「補完」ではなく、ある種「方法」としての視角・役割を帯びたものと位置づけられうる。従来の男性歴史家の「等閑視」から、女性の生きざまを顕在化させていく、つまりヒズ(彼)のストーリーではなく、ハー(彼女)のストーリーを、しかしグレイ本著名な女性のカタログ化ではなく、「歴史から隠された」、「不可視の」また「周縁」におかれたままの普通の女性の歴史をも表舞台に載せる独自の意義をもったものなのである。

今回アティーナ・プレスから復刻されるイギリス女性史に関する4種5冊の本は、ポジティブな姿勢の女性史研究にとって必読文献である。5冊を通して言えることは、これらは「女性史」が歴史学のジャンルとして正当に認知される以前に、女性の手によって著された優れた女性史研究文献であり、かつ女性史の史学史の里程標となる一次史料でもある。

10、11巻のGeorgiana Hill, *Women in English Life from Mediaeval to Modern Times* は、中世から19世紀後半までのイギリス国民生活における女性の地位に焦点をあてた重厚な大著である。社会史的局面向け詳しく取り上げられる中で、貴族の女性や、「ブルースト

キング」や博愛主義活動家などの女性名士と相並んで、家事使用人や女工といった下層の女性の日常生活に多くの描写と考察が充てられている。著者Georgiana Hillは、作家であると同時にフェミニストの演説家でもあった。彼女はこの長大な女性通史を通して、19世紀末の男性史家のウィッグ的歴史解釈(人類の歩みを単線的な進歩の歴史とみなす)に異議を唱えているところが興味深い。

12巻のRose M. Bradley, *The English Housewife in the Seventeenth and Eighteenth Centuries* は、17、18世紀、ピューリタン革命期からヴィクトリア朝成立までのイギリスの主婦と家庭生活に焦点をあてて簡潔に概観した好著である。詳細な註付けがない本書は、いわゆる「糊と鉄」の手法でまとめ上げられて、その点では研究と独創性の欠如と目されるかもしれないが、女性の高等教育への参加がきわめて限定的であった時代に、作者が駆使した「糊と鉄」は、歴史学の補助具として知的な分析と統合に匹敵するものであり、十分に敬意を払うに値するものである。女性を取り巻く家庭環境を史的にたどった類書は皆無であり、またその生き生きした文体にも魅了されよう。

13巻の*The Learned Lady in England, 1650-1760*の著者Myra Reynoldsは、シカゴ大学のイギリス文学の教授で、アメリカの有名女子カレッジ、ヴァッサー・カレッジの創立50周年を記念するにふさわしいテーマとして、女性の知力の発展をイギリスの17世紀から18世紀中葉にかけて「学識あるレディ」の人物像を中心にたどっている。単に、女性知識人のカタログ化にとどまらず、多様な女性著述家と彼女たちの教育状況、女性について書かれた当時の書物などについても触れられており、社会文化資料としても有用である。

14巻のIda Beatrice O'Malley, *Women in Subjection: A Study of the Lives of Englishwomen before 1832* は、男女平等を熱心に擁護し、とくに女性参政権や女性高等教育運動と密接に係わりをもち続けた著者が、18世紀末より19世紀前半にかけて、「従属」という時代制約の中でも発揮された能力

あるイギリス女性の生きざまと思考を見事に描出した研究書である。実に豊富な史料を駆使し、女性の法的地位、公的・私的生活における女性の地位を示し、さらにメアリー・ウルストンクラフトや博愛主義者のエリザベス・フライ、ハナ・モア、その他比較的マイナーな女性たちの短い生き生きした伝記を示すことで、社会の両端で始まりつつあった女性の解放、



への早期の動きを例証した、女性史の古典である。

これら5巻が、イギリス女性史研究の古典的名著の復刻版として、イギリス史、イギリス文学その他広く「イングリッシュ・スタディーズ」に関心をもつ多くの読者層に届くことを大いに歓迎したい。